

(第3種郵便物認可)

県環境アドバイザーからの提言

今そして未来

▶▶12

黒、白、赤のメダカ数匹を、電気式モーターによる強制循環浄化方式でなく飼育し数年になる。具体的には、ガラス水槽に農業用水を入れ、その中に水田の土とホテイ草、ポタシ草類を入れる自然浄化方式だ。このようなシステムを、小魚の循環型社会というのではないかと思う。

設計段階から発生抑制



循環型社会を目指して

【いづがきよし】
県環境アドバイザー
幹事。新田町環境未
来の会副会長。県緑化
センター友の会幹事。

源化は可能か」など、幅広い思考が必要と考
える。
そのためには、生産
会社(容器メーカーを
含む)、行政、そして
使用する消費者間の情
報交換や相互理解が必
要だろう。消費者は、
ビン、ペットボトル、
トレイが、どのような
設計段階から始める省
資源、発生抑制こそが、
この地球を「み」の山
から救う対策と思っ
ている。
(飯塚 清苑)

イチゴを入れた再利用カップドイ
ト フランクフルト

